

## 平成26年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校は「地元根ざし、人権教育を行う学校を」という、地域の熱い要望により設立された。その経緯と伝統を大切に継承し、創立以来の人権教育を軸とした教育実践の充実をはかり、今後も柴島高校人権教育の更なる発展をめざす。そのため、全ての生徒のニーズに応えられる学校づくりをめざし、生徒一人ひとりの個性の伸長と持てる力を最大限に伸ばし、自己実現に向けて大きな展望のもてる「確かな学力と生きる力」を身につけることができる総合学科づくりを行う。

合わせて、障がいの有無や様々な立場の人が、互いに違いを認めながら、共に生き生きと充実して暮らすことのできる人権が尊重された成熟社会の実現に資する生徒が育つ学校を創造する。

- 1 生徒一人ひとりがそれぞれの個性を生かし、主体的に学習に取り組み、学ぶことの楽しさや成就感を感じる中で、知識・技能を獲得し、思考・判断・表現できる力をつけることのできる学校
- 2 自己探求と社会参加への自覚を深める取り組みを通じて、自己実現に向けた進路を切り拓ける学校
- 3 活発な特別活動を通して豊かな心と健康な身体を育てる学校
- 4 一人ひとりが活躍し、学びを得ることによって、社会の多様性推進に貢献できる生徒が育つ学校
- 5 家庭との連携を深めるとともに、生徒一人ひとりが地域や社会の人々に関わる中で、豊かな人間性と市民性を育てる学校

## 2 中期的目標

## 1 主体的な学習に向けた授業改善の推進

- (1) 「協調学習」への授業改善をすすめ、主体的な学習力（生徒自らが考え、理解し、次に学びたいことを見つけ出し、いける力）を育てる

ア カリキュラム委員会を核として学習力向上に向けた新たな授業形態への改善をはかる。

イ 学習者の視点に立った、教材の研究・開発。

ウ 学習方法や方略を獲得させ、生活習慣を見直すことで、学習行動を促しその習慣化を図る。

- (2) ユニバーサルデザインを意識した教育環境、授業づくりの推進

ア 支援コーディネータを中心として、全ての生徒がわかりやすい授業づくりについての研修並びに授業改善に取り組む。

- (3) 各種資格・検定や技能取得に向けた取り組みの推進

ア 進路部が中心となり資格・検定（英検、漢検、韓国語検定、簿記、情報処理、毛筆・硬筆検等）獲得のための補習を実施する。

## 2 キャリア教育・人権教育の推進

- (1) 3年間を見通したコアカリキュラムの作成

ア 「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」、特別教育活動を通じて、自己の探求と、他者とのつながり、自分と社会のつながりを理解させ、夢と志を持った進路選択と自己実現が図れるよう支援する。

イ 自治活動においては、学校生活における様々な課題を発見し、自他の個性を活かし、協働して課題克服に取り組む体験をととして市民性が育つよう支援する。

- (2) 社会参加を促す体制作りの確立

ア 地域連携型授業並びに特別教育活動を通じて、生徒が、地域社会に直接アクセスしたり、「ななめの関係」としての支援者となっただけのよう地域連携部を核として連携体制の整備をすすめる。

イ 地域活動協議会への参加を通じて、地域と連携し、教育的・社会的資源として貢献できる学校づくりをすすめる。

## 3 安全安心で魅力ある学校づくり

- (1) 安全で安心な学校づくり共同研究校として、人権教育推進委員会を中心として、調査・研究をすすめ、新しい教育活動の創出につとめる。

- (2) 支援教育サポート校として、研究をすすめ、「共に学び共に育つ教育」についての公開授業、巡回相談を実施する。

ア アセスメントに基づく個別の教育支援計画の作成と教育実践についての研究を促進する。

## 4 ICTを活用した校務の効率化

統合学校ICTネットワークの活用と、校内イントラネットの整備・総合をすすめる中で、業務の精選と効率化を図り、生徒と触れ合う時間の確保につとめる。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b></p> <p>授業の工夫 生徒 90.8P (7.0P↑) 保護者 80.9P (3.8P↑)</p> <p>授業の理解度 生徒 83.0P (12.5P↑) 保護者 82.1P (9.0P↑)</p> <p>授業アンケート結果の検討、研究授業と事後研修、日常的な意見交流等の成果であると考えているが、主体的な学びを生み出すための研修をさらに進めていきたい。</p> <p><b>【生徒指導・その他】</b></p> <p>学校満足度 生徒 94.6P (2.7P↑) 保護者 98.1P (1.8P↑)</p> <p>特色ある教育活動 生徒 84.3P (2.6P↑) 保護者 94.5P (5.2P↑)</p> <p>豊かな心と生き方 生徒 85.6P (0.0P→) 保護者 91.2P (5.0P↑)</p> <p>教育相談 生徒 79.6P (0.1P↓) 保護者 67.7P (4.4P↑)</p> <p>生徒が自ら考え、行動できることや自他を理解して課題解決に当たれることを目標にして教育活動全体を通じて指導・支援を行ってきた結果だといえるが、今後は自己管理能力を育てるための方策についての研修を進めていきたい。</p> <p><b>【学校運営】</b></p> <p>若手教員が全体の半数以上となり、学校運営を支える機動力となっている。学校方針の継承や細やかで粘り強い生徒指導の充実に向けてさらに組織力を生かした学校運営を図っていきたい。</p>	<p>第1回 (6月19日)</p> <p>報告：学校経営計画並びに各学年・分掌の年間方針</p> <p>意見：昨年度の総括が生かされた内容になっている。 生徒一人ひとりが自己肯定感を持てるような集団作りに努めてほしい。</p> <p>協議：PISA型学力の伸長に向けた授業改善について</p> <p>意見：学習の成果を実感できるような授業作りに努めてほしい。 学び合う場面を設定することが重要な要素になると考える。 インクルーシブな教育システムについての教職員間の論議が必要と考える。</p> <p>集団育成について</p> <p>意見：教師間の協力体制や日常的なつながりが、ヒドゥン・カリキュラムとなることから考えると、学校課題について全職員が論議し合えるような研修会を取って持つというようなことも考えてみてはどうか。</p> <p>第2回 (1月23日)</p> <p>報告：年間総括について</p> <p>意見：生徒との活動時間を増やすための工夫をさらに進めてほしい。</p> <p>授業アンケートについて</p> <p>意見：振り返りの時間を設定するなど、授業での成果・疑問点を明確にしてやること、主体的に学びを広げたり深めたりすることに繋がると考える。</p>

	<p>第3回(3月13日) 報告：H26年度学校評価について 意見：主体的な学習習慣を形成するには、計画的な学習課題の設定が必要と考える。 動機づけが外からのものであったとしても、分かった・分かるということから、習慣化が図られるというデータもある。 授業アンケートについて 意見：授業アンケートの結果を持ち寄って、話し合いを持つことが必要と考える。 アンケート結果は個人情報ではあるが、そのあたりを工夫して行う必要がある。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 主体的な学習に向けた授業改善の推進	<p>(1) 学習方法や方略を獲得させ、生活習慣を見直すことで、学習行動を促しその習慣化を図る。</p> <p>(2) ユニバーサルデザインを意識した教育環境、授業づくりの推進</p>	<p>ア. 学習オリエンテーションの実施 ・1年時において学習の方法を十分に指導・支援するための学習オリエンテーション並びに支援週間(年3回)を設定する。</p> <p>イ. 学習相談体制の構築 ・各学年において、学力育成部が中心となり、学習方法についての相談やつまづき克服のための支援をおこなう。</p> <p>ウ. 自習室の整備 ・自分の計画に沿って、集中して学習のできる自習室の整備を促進する。</p> <p>ア. 「視覚化・協働化・構造化」をキーワードにした授業改善の推進を図るための研修と相互に公開授業研修会を実施する。 (研修2回/年、公開授業2回/年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活実態調査アンケート (授業外での学習時間を毎日1.5時間の確保。)</li> <li>学力診断テスト (総合平均の5点アップ)</li> <li>自習室年間利用者数(延べ) (昨年比1.2倍)</li> <li>進路達成率 (進路達成率100%) (中退留年者1%以下)</li> <li>授業アンケート (授業の様子質問項目平均3.5/4ポイント以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習課題への取り組みはできている(授業外学習時間1時間)が、主体的に予習・復習を習慣化するところまでには育てることは出来ていない。(△)</li> <li>学習診断テスト (総合平均の上昇は3.2点) 無答問題の減少や得点の分散が縮小していることから、相談・支援の効果は出ていると捉えている。(△)</li> <li>自習室利用者数(昨年比1.2倍)(○)</li> <li>進路達成率 (進路達成率:98%) (中退留年者:0.5%)</li> <li>研修・公開授業は計画通り実施(○)</li> <li>授業アンケート (授業の様子質問項目平均3.32/4ポイント)(△)</li> </ul>
2. キャリア教育・人権教育の推進	<p>(1) コアカリキュラムの継続的な効果測定を行い、その改善を図る。</p> <p>(2) 地域活動協議会への参加と地域連携体制を構築し、生徒の市民性の醸成を図る</p> <p>(3) コアカリキュラムの授業におけるサブティチャー、ゲストティチャーの確保を図る</p>	<p>ア. コアカリキュラム3年間の指導をポートフォリオ化し、生徒の成長の「見える化」を図り、継続的に改善を加える。</p> <p>ア 地域活動協議会への参加と連携 イ 地域企業との連携授業 ウ 地域企業でのインターンシップ エ 地域ボランティア活動への参加 オ 出身中学校訪問の実施</p> <p>ア. 卒業生の組織化を図り、サブティチャー登録制度の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コアカリキュラムにおける効果測定を生徒の行動記録を元に紀要としてまとめる</li> <li>広域防災訓練への連携参加 (地域防災計画の作成) (地域安全マップの作成)</li> <li>地域近隣施設への生徒派遣 (30回/年以上)</li> <li>登録名簿の作成と授業への参加 (登録者獲得目標100名) (参加授業10時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コアカリキュラムにおける観察記録とポートフォリオの整理と振り返りを行い、次年度に向けてシラバスの改善を行っている。(○)</li> <li>府市の防災マニュアルに相違があることから、今後も区役所と継続・協力して地域防災計画の作成に向けて検討を続ける。(△)</li> <li>地域安全マップは近隣小学校の児童へ配布できた(○)</li> <li>生徒派遣、交流・ボランティア活動については回数、内容において計画以上の成果を上げた(○)</li> <li>卒業生の協力を得て、登録者数は100名を超えた。また、サブティチャーとしても多くの方に参加してもらえた。(○)</li> </ul>
3. 安全安心で魅力ある学校づくり	<p>(1) 熟慮して判断し自立ある行動のできる生徒の育成</p> <p>(2) 自治活動の活性化を図る</p> <p>(3) 「共に学び共に育つ教育」についての公開授業と巡回相談の実施する。</p> <p>(4) 行動規範の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パブリックとプライベートの区別ができる 自他の尊重を意識し行動できる を目標として、各ターム(4期)毎に目標を設定し、生徒の自律的行動の育成を図る。</li> <li>クラブ活動について、重点的に環境整備を行い、活性化に努める。</li> <li>支援コーディネーターがスムーズにサポート業務のできる体制の創出(継続)</li> <li>サポート校としての情報発信と学校としての教育活動の充実(継続)</li> <li>昨年度に引き続き柴島高校職員の行動規範を遵守する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間管理 遅刻者数20%減</li> <li>規律遵守 (生活実態調査における学年目標、行事目標の達成率85%以上)</li> <li>環境整備を図る (安全、防球ネットの整備)</li> <li>クラブ加入率のアップ (加入率87%以上)</li> <li>公開授業と研究協議会の実施 (それぞれ2回/年以上)</li> <li>保護者、生徒の学校診断アンケート (職員行動規範に対する肯定的回答を95%以上にする。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間管理 遅刻者数20%減</li> <li>規則遵守 (学年目標達成率82% 行事目標達成88%)(△)</li> <li>環境整備(○)</li> <li>クラブ加入率87%(○)</li> <li>公開授業と研究協議2回実施(○)</li> <li>サポート校として月間リフレットの発刊 公開授業、コーディネーター連絡会の実施(○)</li> <li>学校診断アンケート 保護者96% 生徒93%(△)</li> </ul>

## 府立柴島高等学校

<p>4. ICTを活用した校務の効率化</p>	<p>(1) システム管理部を中心として、統合学校ICTネットワークの運用に向けて、校内イントラネットの整備・総合をすすめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修報告システムへのデータ集積とインデックスの改良を図りながら、活用の促進を図る。</li> <li>・校務処理システムの円滑な活用にむけて、システム管理部を核としたOJTを継続して行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校グループボード、職員室電子掲示板、との連動化を図る。 (出来たか否か)</li> <li>・職員学校診断アンケート (ICT活用についての取り組みに係る肯定的回答80%以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校情報ネットワークから校務処理システムへの移行計画の遅れから、不可能な部分が発生しているが、改善を要する点が明確になった。(△)</li> <li>・学校情報ネットワークと校務システムの許容範囲が異なるため、様々な点で困難が生じている。その為、活用に要する時間が膨大なものとなっている。今後、林-ト校として提案を行っていくと同時に、改善に努めたい。 肯定的回答28%(△)</li> </ul>
--------------------------	---	---	--	--